県政から築く 印西市の元気な明日

瀧田（たきた）田（だ）敏（とし）幸（ゆき）県議

瀧田県議の働きかけで

印旛医療圏へ386床を確保!!

印西市特集　9月県議会一般質問

10/1　四度目の一般質問を行う瀧田県議

後は印西市へバトンタッチ

今県議会の瀧田県議の一般質問で、印旛医療圏へ新たに病床配分されることが明らかになりました。これは、瀧田県議が行った昨年六月と十二月県議会の一般質問をはじめとして、自民党印旛郡市選出県議十名を中心とした同党県議団による県当局への働きかけにより、印旛・山武保健医療圏の見直しが行われ、印旛保健医療圏が独立し、新たに三百八十六床の増床が決定したためです。

今後は、印西市が選考決定した事業者の「医療法人社団・正徳会」について、千葉県医療審議会が、資金計画や医療の熟度（医師、看護師、薬剤師等の人的確保をはじめ、安定した医療を地域へ提供できるかどうか）について、実務的・客観的な審査を行うことになります。

新たな病床確保は、政治の力で成功しました。今後の成否は、印西市や選考事業者の責任と努力にかかっているといえます。

瀧田議員　本年四月に千葉県保健医療計画の見直しが行われ、医療圏の圏域変更で、新たに印旛保健医療圏が誕生した。この計画の実施で、新たに病床の配分が行われるが、不足病床の配分は今後、どのように進めていくのか。

堂本知事　見直しを行った保健医療計画では、五医療圏で不足病床が生じているほか、一医療圏で病床の返還が予定されています。六月に開かれた医療審議会病院部会で、病床の配分を行っていくことが決まりました。

県では、この決定を受け、七月末には関係医療機関に対し、不足病床の配分の考え方を示し、病院等の新規開設や増床を希望する者からの事業計画の募集を通知したところです。この計画書の提出は、十月一日から三十一日までです。計画書の提出を受けた後、ヒアリングを行い、医療法上の許可要件を満たしているかどうか、また、保健医療計画との整合性や病院等の資金計画が適正であるか等を確認することにしています。

さらに、病院等が新規開設や増床を予定している市町村及び地元医師会等に意見を聞き、医療審議会病院部会で事業計画の具体性や優先度などを審議し、病床を配分していく予定です。

瀧田議員　今回の不足病床の配分は、どのような基準で行われるのか。

堂本知事　今回の基準では、「地域の中核となる病院」等の新設や、「救命救急医療」「周産期医療」「小児医療」「難病医療」「回復期リハビリテーション医療」など、地域医療にとって特段に整備すべきものに対して、優先的に配分することにしました。

誘致企業との個別商談会を

瀧田議員　北総地域への企業誘致施策について、県はどう取り組むのか。

商工労働部長　北総地域は、成田空港の拡充、成田新高速鉄道や圏央道の整備が進む中で、企業立地の優位性がますます高まることが期待される地域です。特に千葉ニュータウンは、都市再生機構が昨年度、事業計画を大幅に見直し、一部、工場などの立地も可能な施設用地が確保され、有効な活用が求められています。

要望　今後とも商談会への取り組みを強化されたい。あらゆる手段を講じて、発注情報の入手、きめ細かい情報提供、斡旋を行うなど、下請け中小企業者の県内外での取引拡大に向け、一層の努力をお願いしたい。

谷垣国交大臣に直接要望

北総鉄道運賃問題の解決に情熱を傾ける瀧田県議は、これまでにも国土交通省鉄道局へ要望活動を行ってきました。八月には、超党派で谷垣禎一国土交通大臣を訪れ、十万人を超す署名も提出しました。

さらに九月十八日には、自民党13区選出の実川幸夫代議士を通じ、再度、谷垣前大臣と面会、北総鉄道の運賃値下げ問題で突っ込んだ要望と意見交換を行いました。

成田新高速鉄道の進捗状況を視察する瀧田県議

瀧田県議の3大政策

1. 成田新高速鉄道開業に伴う北総鉄道の高運賃是正
2. 印西市の総合病院誘致。千葉県の印旛保健医療圏への病床配分の確保
3. JR木下・小林駅橋上化と成田線の利便性向上

●9月県議会自民党代表質問●

財源不足への対応を追及

九月定例県議会で、最大会派の自民党から西尾憲一議員（船橋市選出、四期目）が、党の代表質問に登壇しました。

西尾議員は、県政の基本である財政問題を筆頭に、水の需給問題、北総鉄道の運賃是正、逼迫する自治体病院への支援策を含む地域医療問題、食の安全・安心について、三番瀬問題などいずれも県政の重要課題を取り上げ、堂本知事ら県執行部を追及し、党としての懸念を表明しました。

この中で、九月補正段階でもなお九十億円の財源不足が生じている問題で、知事は「楽観が許される状況ではない」とし、県税の滞納整理や経費節減に全庁一丸となって臨み、年度内に財源不足を解消したいとの意向を示しました。